

事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 30年 7月 31日

事業所名 わくわくクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		児童発達支援の指導訓練室はスペースが十分確保されているその良さを活かし、様々な活動を実施している	
	2	職員の配置数は適切である	○		常勤職員以外にも非常勤職員等を配置し、質の向上を図っている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		未就学児や障がいの特性に応じた設備が十分に整っているかについては、少し不十分だと思われる来年度に向けて設備の充実を図るバリアフリー化は、建物の構造上厳しい面もあるが、玄関周り等の段差解消に向けて検討する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		指導訓練室の壁面等、未就学児に向けたレイアウトを心掛けている	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			非常勤職員やアルバイト職員については、勤務時間等の関係で、日々の参画は困難になる職員会議や研修といった方法で、参画しやすいよう改善を進める
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者等向け評価表以外にも日々の連携により、意向等を把握している	保護者等向け評価表や日々の連携等を引き続き行い、保護者の意向や要望等を取り入れ、業務改善にも繋げていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			現段階では、配布物(手紙)として公開しているが、他の方法(HP等)でも公開出来るよう取り組む
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		障がい児理解や地域に開かれた施設運営を目指す観点から地域の方を交えた第三者委員会設置を検討していく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		OJTやOFF-JTを取り入れ資質向上を図っている	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		児発管を中心に保護者、職員が参画し、計画を作成している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		子どもの能力や特性、能力に関する情報を客観的に把握するためにも今後、適性検査等の標準化されたアセスメントツール使用も検討する
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		保護者の要望を確認し、保護者の要望と子どもの発達段階に応じた支援内容を設定している その際、児童発達支援ガイドラインに則した内容であるかを検討しながら、設定している	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		子どもの状態にもよるが、計画に沿った支援を実施している	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児発管を中心に職員が参画し、立案等を行っている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもや保護者の要望等を取り入れながら立案している	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している		○		子どもの状態に応じた活動を実施しているが、利用者が1名なので、集団活動は実施出来ていない	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		常勤職員は朝礼時、非常勤、アルバイト職員については、出勤後必ず確認している	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			常勤職員については、支援終了後ミーティングを実施しているが、非常勤、アルバイト職員については、ミーティングに参画できない場合があるので、情報共有強化について検討する
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を適切にとり、支援の検証・改善、アセスメント時や計画作成時に使用している	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者の意向を聞きながら、判断している	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児発管や該当の子どもを担当している職員が参画している	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		該当の子どもを担当している職員が他機関と連携し、当施設での支援に繋げている	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、今後の受け入れとしても職員体制(医療的な専門的知識)や施設設備面等から困難を生じさせる可能性があると考えられる(子どもの状態によって対応は異なる)
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、今後の受け入れとしても職員体制(医療的な専門的知識)や施設設備面等から困難を生じさせる可能性があると考えられる(子どもの状態によって対応は異なる)
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		該当の子どもを担当している職員が必要に応じて他機関と連携し、情報共有を図っている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		過去にそのような状況に当てはまる子どもがいなかったため、実施なし 今後、該当する子どもが利用する場合、情報共有等の連携を図りたい
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要に応じて専門機関との連携を図っているが、民間団体等(他事業所)との連携が中心になっている現状がある 今後の課題として、公的な専門機関との連携を図る、強化する
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		他施設等の子どもたちとの交流については、当施設利用の子どもの状態に配慮し、今後の目標として設定していく
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		現在、積極的な参加は出来ない 次年度以降の課題として検討する
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用時、連絡帳や電話、場合によっては訪問等を行いながら、共通理解に繋げている	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			可能な範囲でペアレントトレーニング等の保護者支援も実施しているが、保護者支援の向上を目指し、職員のスキルアップに繋がるような研修等を実施する	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		管理者が定期的に運営規程等契約に必要な書類の読み直し、法人本部職員へ模擬説明を実施	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		児発管と該当の子どもを担当する職員で計画の説明を行い、同意を得ている	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		該当の子どもを担当する職員が対応し、場合によっては、相談支援担当職員（法人内）と協議等を実施	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		利用者が1名なので、保護者会等の実施なし今後、利用者が増えた時点で保護者会等の組織を考えていきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情処理窓口を設置し、迅速かつ適切に対応できるよう事業運営を実施 保護者には苦情処理窓口案内を配布	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		通信を発行し、活動の様子や行事予定等を発信	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		書類等施設内での管理・保管、個人情報に関する危機管理を職員に周知徹底	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		意思疎通や情報伝達、日々の会話など、必要に応じて筆談や器具を使用するなどの配慮を実施	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		開かれた施設運営を目指し、近隣住民の方々に協力、参画して頂けるイベントを開催するなど可能性を検討する
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的に全職員が各種マニュアルを再確認し、意識向上を図りながら支援を実施	職員への周知は出来ているが、保護者への周知については、まだ不完全と思われるモニタリングや面談時など機会をつくり、再度周知に努める
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		様々な教材を使用する啓発的訓練を実施	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者を通して事前に確認している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食物アレルギーの子どもが利用する場合は、おやつ等の提供時内容、成分を複数の職員で確認	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		職員会議や職員朝礼時、全てのヒヤリハットを確認し、今後の支援に役立つよう検討を実施	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止、人権の研修を毎年実施	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		集団指導冊子や法人作成のマニュアルと照らし合わせ、やむを得ない場合、適切に対応出来るよう職員に周知徹底	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。